

SHIN CLUB 199

(株)辰 東京都渋谷区渋谷3-8-10 JS渋谷ビル5F

tel/03-3486-1570 fax/03-3486-1450



今月のトーク/monthly talk

「LOKO GALLERY」 撮影：傍島利浩

ギャラリー

「芸術の秋」です。今月は、代官山に7月にオープンしたコンテンポラリー・アートのギャラリーをご紹介します。

写真の「LOKO (ロコ) GALLERY」は、オーナー・遠藤和夫氏が長年の構想を形にしたギャラリーです。LOKO はエスぺラント語で「場所」を意味する言葉。新進気鋭の若いアーティストに活動の場を提供するとともに、美術を介した自由なコミュニケーションの場としたいということで、カフェも併設しています。

日本で美術作品に触れる場合は、美術館などで入場料を払って鑑賞する、ということが多いかもしれません。一方で「作品を買う」ということはまだあまり一般的ではないでしょう。ギャラリーの多くは入場無料であるとともに、作品を買うために顧客が訪れる場所でもあります。またギャラリー（画廊）は、アーティストに作品発表の場を貸す「レンタル・ギャラリー（貸し画廊）」と、展覧会を企画し作品を販売する「コマーシャル・ギャラリー（企画画廊）」に大別されます。さらに「コマーシャル・ギャラリー」には、画廊主が作家と契約し作品の一次販売の値段を決める「プライマリー・ギャラリー」と、オークションなどで調達した作品を販売する「セカンダリー・ギャラリー」とが存在します。LOKO GALLERY は「プライマリー・ギャラリー」にあたります。ギャラリーは作品を販売するだけでなく、作家を育てていく役割も担っています。最近ではインターネットで気軽にアート作品を購入できるサイトもあり、日本国内だけでなくアジアやヨーロッパ、アメリカなどのマーケットの動向もアーティストには気になるところでしょう。

7月8日、LOKO GALLERY は、2014年の横浜トリエンナーレでも注目を

集めたアーティスト・和田昌宏氏の個展でこけら落としを迎えました。続いて8月中旬から9月初旬までは、画家・近藤恵介氏と小説家・古川日出男氏の共作展を開催。今後毎月1ヶ月に1つのペースで展覧会を行っていく予定だそうです。遠藤氏は「日本にも面白いギャラリーがたくさんありますが、自分の理想とするギャラリーを自分の手で作ろうと決心しました」ということで、海外のギャラリー事情に精通する方のアドバイスを受けながら、建築家の加藤かおるさんと計画を練っていきました。

「ヨーロッパには『壁』の文化があります。多くの家庭には自宅へ人を招く習慣があり、家の『壁』に飾るアートは、人々の交流のきっかけにもなります。一方で日本やアジアの国々にはそういった『壁』の文化が希薄です。風土が違うといえばそれまでですが、日本ももっとアートに期待していいのではないのでしょうか。作家たちにスペースを提供して発表の場を増やしていくことに貢献したい。国も芸術家の育成に充てる予算を増やしてほしいですね」と遠藤氏。

そういえば、アメリカ・マンハッタンに住むごく普通の夫婦が、30年かけて2000点以上の現代アートをコレクションし、最後は全部ナショナルギャラリーに寄付した、というドキュメンタリー映画がありました。収めきれなかった作品は、全米50州の美術館にさらに寄贈されていたということです。

ぜひ一度 LOKO GALLERY にお出かけになって、新しいアートを楽しまれてはいかがでしょうか。鑑賞後は、カフェの美味しいオーガニック・コーヒーでゆったりとした時間を過ごしてみてもいいですね。

LOKO GALLERY



カフェも併設、アーティストの活躍の場、 コンテンポラリーアート・ギャラリー

建物は、1階手前にカフェ、奥には吹き抜けの展示スペースがあり、2階へつながっている。地下1階には作品の展示やトークショーも行えるスペースが配置され、カフェと連続した空間になっている。3階には、アーティストのレジデンス住戸を用意し、3・4階には賃貸を想定したメゾネット住戸が置かれている。用途、空間ともにコンプレックスな構成の建物である。

オーナーの遠藤氏は初めてお会いした時には、既に具体的な設計コンセプトをお持ちだった。

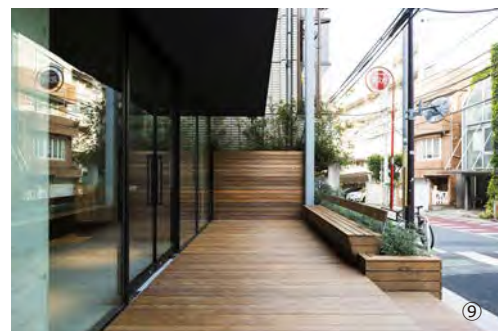
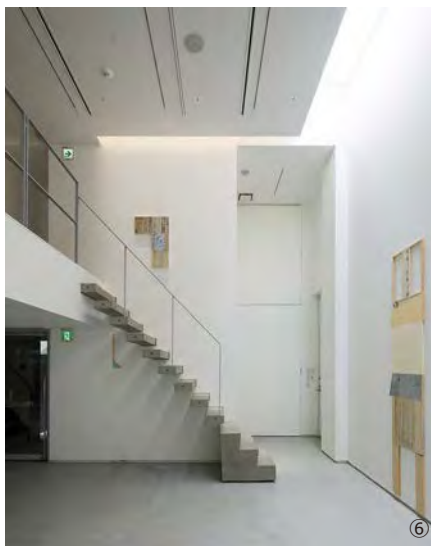
①吹き抜けを持つ高い天井の展示スペース、②トップライトから自然光が広がる空間、③カフェ併設。都内のほとんどのギャラリーは、小さなスペースで、アーティストの自由な作品づくりに応えられるスペースを確保しているところは少ない。「LOKO GALLERY」では、限られたボリュームの中で、最大限、多様な作品を許容できる空間を目指した。

また「もっと気軽にアートを楽しんでほしい」という遠藤氏の思いから、1階奥の展示スペースの床を少し高くし、道路よりカフェ越しにギャラリーの展示作品を楽しめるよう意識した。

ギャラリーに併設されたカフェ「私立珈琲小学校」には、富山・高岡で硫化染色された銅板とオークで構成されたカウンターがあり、元小学校教諭のバリスタ・吉田恒氏が丁寧に入れたコーヒーを味わいながら、作品を眺められる。デッキテラスにはベンチを設え、気軽に立ち寄れるオープンな空間とした。

建物の真正面は猿楽小学校の正門へつながり、子どもたちも身近にアートを親しめる場所となればと期待する。

(加藤かおる氏 談)



構造：RC造 規模：地上4階、地下1階
用途：店舗、住宅
設計・監理：加藤かおる / ハウスカー級建築士事務所
施工担当：瀧澤 堀内 竣工：2016年7月
撮影：傍島利浩

LOKO GALLERY

東京都渋谷区鶯谷町12-6
TEL:03-6455-1376 FAX:03-6455-1378
URL: <http://lokogallery.com>
【火-土】11:00 - 19:00 【不定休】

私立珈琲小学校

【火・水・木】11:00 - 19:00
【金・土・日】11:00 - 20:00 定休日：月曜日

①ファサード全景。チャコールグレイの左官壁は、斜壁部も目地無しで施工②アプローチ。リン酸亜鉛皮膜を処理したスチールパネルに導かれギャラリーへ③カフェと展示室。中央に地下への階段④1階展示室よりカフェと2階の展示室を臨む⑤地下1階。地下でありながら、外の光、風、音、雨、雪など自然が感じられる。ドライエリアの植栽が目に見える⑥1階展示室。トップライトより降り注ぐ自然光が展示空間へ広がる⑦メゾネット部分⑧アーティストレジデンス住戸部分⑨1階オープンデッキ。植栽側にはベンチを設置



魅力的な集合住宅をつくるには

渋谷 typ にて
高木栄一氏

今月は、創立記念月間の社内勉強会として、「タカギブランニングオフィス」の高木栄一社長を講師にお迎えしました。発足当時からご用命いただいている高木社長に、デザイナーズマンションの草分け的存在としての歩み、事例紹介など、スライドを上映いただきながら、お話しいただきました。

会社の創業は、今から約 20 年前の 1997 年。原宿の明治通りの交差点にあるビルの一室で、3 人でスタートしました。それまで、私は不動産会社で 10 年間、サラリーマンをしていました。1990 年代の集合住宅、特に賃貸は、郊外の大規模ニュータウンのファミリー向け住宅とか、企業の社宅、公営住宅などでほんとにかっこ悪く、ワンルームはというと、非常に狭小で、建築家が設計するということはあり得なかった時代でした。私はもっと美しく、機能的な集合住宅が求められていると感じ、「建築家の設計でかっこいい集合住宅を建てよう」と起業したわけです。すると、マスコミがどんどん取り上げてくれて、一般の方にもそのスタイルが認知されるようになっていきました。

我々は、作るだけでなく、管理や賃借人の斡旋まで行います。特色として、企画から管理、運営までやらせていただく。そして、基本的に建築家の設計によるものを建てるということです。人気が出始めると方々から問い合わせが来ました。そんな中、私はデベロッパーの投機的な事業やリート物件は嫌いでずっと断ってきました。施工会社は、辰さんや他に規模等に応じて 2、3 社の会社をお願いしています。

お客さんとは言えば、地主の方が相続対策でやる事が多く、金融機関からの借入れを行うことがほとんどです。金融関係の知識も欠かせません。そして工事するとなると、近隣対応等のため法律関係も詳しくないといけません。入居後の管理では、最近では、ご存知の通り「民泊」というのが流行っていて、住居使用とウソをついてうちの会社の物件を勝手に民泊に利用する人たちがいるんです。狙われていますね、かっこいい部屋が多いから。でも民泊用 HP にアップして宿泊者を募集するものだから、調べるとすぐにうちの物件だとわかってしまう。何人もの外国人が昼夜問わず出入りし、泊まって大騒ぎすれば、それは他の入居者や近隣の方にとっては迷惑ですよ。

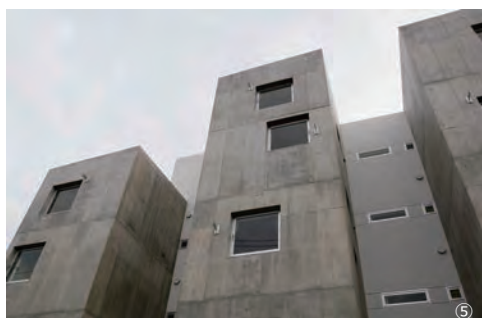
事例を少しずつご紹介いたします。辰の施工物件の中で、「TPO レコメンデーション」という建築家の指名コンペで設計者を選定したのが王子の「blocco」(2006 年竣工・写真⑤)です。設計は長田直之さん。第 5 回目だったでしょうか。(1999 年から 6 回行われた) プレゼンテーションを「リビングデザインセンター OZONE」に展示して、審査員には、編集者の鈴木紀慶氏やブルーアス編集長の西田善太氏などをお願いして、建築関係の先生にはあえて依頼しませんでした。レコメには、今ではプリツカー賞や、建築学会賞を受賞されている先生方が、快く参加してくれました。施工費は今の半分くらい(笑)。「blocco」は十字プランが魅力的で、横方向、縦方向のレイアウトの仕方や、風の通りが良く面白かったですね。ただ外壁量が多いので、施工的には大変でした。視界を楽しめるのもポイントでした。長田さんは造形がすごく上手ですね。

1990 年、創業よりも前に池尻大橋で作った最初のマンション、「RADIANT」(1990 年・写真①)は、地形に合わせた放射型の建物で、北山恒さん、谷内田章夫さん、木下道郎さんの 3 人の共同事務所「WORKSHOP」の設計です。今でも入居者はコンスタンスに入っています。ここからコンクリートの打ち放しにこだわって建てるようになりました。メンテナンスフリーという点がいい。お客さんであるオーナーの経費をなるべくかけないようにした仕様です。この形式がデザイナーズマンションの発祥だと考えています。

「clover house」(2010 年・写真②)は北山恒さん設計で、三軒茶屋の「明葉通り」という電柱が埋設された通りに建てられました。きれいなファサードで、オーナーは大変喜んでます。内装は北山さんらしいハードな魅力の建物です。他にも北山さんの設計では辰さんの施工でいくつか建てていますね。

高円寺で連続して 5 棟建てさせていただいた地主さんの物件がありました。借地が借地人さんから戻るときに集合住宅を建てていき、「魅力的な町を作っていこう」というテーマで行った開発です。最初、「ALVA」を谷内田章夫さんに担当していただき、第 2 弾もオーナーの希望で谷内田さんに設計をお願いして「HUTCH」(2011 年・写真⑥)という集合住宅をつくりました。細長い敷地で、入口に集会室を作って、乾燥機や自動販売機、本を置いてライブラリーにしました。長屋的な住宅になっています。第 3 弾は設計が小川晋一さん、施工会社はこれだけ辰以外の会社でした。第 4 弾は荒木毅さん設計の「LOP」(2013 年・写真③)で 4 戸しかない建物でしたが、板間がテーマ。大和重工の「五右衛門風呂」という鑄物の風呂を入れました。(写真④)以前、京都の有名な旅館に行った時、中庭に面した内風呂が狭いのにとても良く、寸法を測って今度うちのマンションでやってやろうと思っていたので。第 5 弾は「LINO」(2014 年・写真⑦)、設計は先ほど「blocco」でも担当された長田さんです。かっこいいですね。(以下、略)

私は昔から建物を企画するときに、計画のヒントを洋風の建物ではなく、実は日本の古き良き建物に求めています。日本の昔の家屋には、風や光の入り方など参考になるものがたくさんあります。マンションの室内に土間の空間を入れたくなるのもその影響。今後とも、良い建物を作っていきたいですね。



①RADIANT(1990) 撮影：斎部功②Clover house(2010) 撮影：阿野太一③LOP (2013) 撮影：篠沢裕④トイレと五右衛門風呂 _LOP 撮影：篠沢裕⑤blocco (2006) 撮影：KAZUO FUKUNAGA⑥HUTCH (2011) 撮影：深谷聡一⑦LINO (2014) 撮影：KAZUO FUKUNAGA (①以外は、弊社施工)

「カルツェドニア新宿」 がグッドデザイン賞 2016 を受賞



所在地：新宿区

構造：S造（一部SRC造）

規模：地下2階、地上3階、工作物

用途：物販店舗

設計・監理：光井純アンドアソシエーツ建築設計事務所

施工担当：岩本、鯨津、川崎

竣工：2015年9月

撮影：アック東京

2015年9月に竣工した「カルツェドニア新宿」がこのたび、グッドデザイン賞 2016 を受賞しました。

グッドデザイン賞は、様々に展開される事象の中から「よいデザイン」を選び、顕彰することを通じて、社会全体をより豊かなものへと導くことを目的とした「総合的なデザインの推奨制度」です。（公益財団法人日本デザイン振興会主催）

もとは1957年に通商産業省（現経済産業省）によって創設された「グッドデザイン商品選定制度（通称Gマーク制度）」というもので、以来約60年にわたって実施されています。大賞はあらゆる領域にわたり、受賞数は毎年約1,200件、59年間で約43,000件に及んでいます。グッドデザイン賞を受賞したデザインには「Gマーク」をつけることが認められており、「よいデザイン」の指標として、その役割を果たし続けています。

弊社でこれまで施工させていただいた受賞作品には「Vague（設計：北山恒 architecture WORKSHOP）」、「リジェンティス（設計：木名瀬佳世建築研究室）」、「CASCADE 原宿（設計：UDS）」などがありますが、いずれも設計者の方のみの受賞でした。今回は、弊社も施工会社として一緒に受賞することになりました。以下は、設計の光井純氏のコメントです。

「新宿の目抜き通りに面して、『間口4m、角地』という小さな敷地に新たに建設した商業施設である。外観デザインは内部が良く見えるガラスファサードとし、昼は小さなスカイスクレーパーのように、そして夜はランタン状の建物となって周囲に存在感を示している。細長い内部空間は、スキップフロアになっており、吹き抜けの中央階段が店舗の回遊性を生み出し、店内をめぐる人の様子が街行く人々からよく見えるように配慮している。また、上層階にも魅力を持たせるために工作物を設け、周辺の建物と高さを合わせる工夫をしている。結果的に看板建築が多く建ち並び、埋没しがちなストリートにおいて、建築デザインの力で新たな街並みをつくることを試みた。ファッションブランドをテナントに迎えた今回の計画では、建物の表情として店舗内部の様子を見せることは重要なファクターとなる。その中での人々の動きこそが外部へのメッセージとなり、人々の賑わいを作る。街本来の活気を見せるために、建築のデザインが街並みを作る可能性を再認識したい」

（光井純 & アソシエーツ建築設計事務所）

受賞した作品は、10月28日から11月3日まで開催される、「G展『GOOD DESIGN EXHIBITION 2016』（2016年度グッドデザイン賞受賞展）」で紹介されます。

一般公開 10月28日（金）17:30～20:00、10月29日（土）～11月2日（水）11:00～20:00、

11月3日（木・祝）11:00～17:30 ※入場は閉場時間の30分前まで

会場：東京ミッドタウン（港区赤坂9-7-1）、入場料：1000円（税込・7日間共通）／中学生以下無料

※「カルツェドニア新宿」のパネル展示は、ミッド・タワー内の4Fか5Fとなります。どうぞお出かけください。

「今年もやります、ZEN 社一丸大運動会」参加者募集中！

ZEN グループ恒例の「ZEN 社一丸運動会」を今年も開催します。

日時：2016年10月29日（土）9:15～（8時受付開始）

会場：よみうりランド

今年はJBC（ジェイ・ビー・シー・サービス株式会社）が加わり、昨年、優勝を果たした弊社では今回も優勝旗を持ち帰るべく社員一同、一致団結して臨みます。お客様、協力業者の皆様の中で参加希望の方は、ぜひ辰の社員とともにスポーツの秋を満喫してみませんか。お問い合わせは本社 TEL:03-3486-1570まで。

「(仮称) 砧五丁目プロジェクト 新築工事」
地鎮祭 2016年8月25日

砧スタジオ近く、世田谷の閑静な住宅街に、10戸の共同住宅が建ち上がります。

構造：RC造
規模：地上3階
用途：共同住宅

設計・監理：司建築設計事務所
完成予定：2017年2月

「(仮称) 大門 KUROGI ビル 新築工事」
上棟式 2016年9月4日

高級料理店の建物が、いよいよ建ち上がってきました。

構造：S造
規模：地上5階
用途：店舗
設計：アーキベルク
完成予定：2016年12月

編集後記

・「LOKO GALLERY」でのオーナー遠藤様は、仕事をリタイアされてから、若い芸術家たちを支援していただくことを形にされています。そのクリエイティブな姿勢に感銘を受けました。

(株)辰通信 Vol.199 発行日 2016年10月10日 編集人：松村典子 発行人：森村和男
〒150-0002 東京都渋谷区渋谷3-8-10 TEL:03-3486-1570 FAX:03-3486-1450
E-mail: daihyo@esna.co.jp URL: http://www.esna.co.jp

「SHIN CLUB」はWEB上でもご覧いただけます。バックナンバーも掲載しています。
<http://www.esna.co.jp/shinclub>
スマホはこちらから →

